

2004年9月16日

会社名 株式会社 大丸
 コード番号 8234
 代表者名 取締役会長 奥田 務

2004年8月度 大丸 連結営業報告

1. セグメント別売上高対前年増減率(%)

	8 月 度	3 ~ 8 月 累 計
百貨店業	5.1	3.0
スーパーマーケット業	2.8	2.3
卸売業	8.0	2.5
その他事業	15.8	6.0
連結合計	0.5	1.6

(注) 売上高にはその他営業収入を含めていない。また、各事業の売上高には連結会社間の売上高を含む。

2. 百貨店業 売上高概況

1) 店舗別売上高対前年増減率(%)

	8 月 度		3 ~ 8 月 累 計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
心齋橋店	5.1	8.1	3.3	4.8
梅田店	6.5	9.5	3.5	5.0
東京店	8.7	2.4	4.1	0.3
京都店	2.6	7.5	1.0	11.2
山科店	4.2	-	2.7	-
神戸店	0.1	0.1	0.3	0.7
新長田店	14.4	-	11.1	-
須磨店	9.9	-	5.8	-
芦屋店	15.3	-	4.9	-
札幌店	6.1	4.2	2.4	21.3
直営10店舗計	2.9	3.4	1.8	4.6
博多大丸	12.2	9.2	8.0	2.8
下関大丸	16.0	12.4	8.1	5.8
高知大丸	11.1	16.4	5.6	5.7
今治大丸	4.4	8.5	3.9	6.4
百貨店業合計	5.1	-	3.0	-

(注) 直営店の入店客数合計の対前年増減率は、心齋橋、梅田、東京、京都、神戸、札幌の6店計である。

2) 直営店 商品別売上高対前年増減率(%)

	8 月 度	3 ~ 8 月 累 計
紳士服・洋品	4.6	2.9
婦人服・洋品	2.5	1.2
子供服・洋品	7.8	4.2
その他の衣料品	3.2	3.2
衣料品計	3.1	1.8
身の回り品	3.7	2.5
家具	8.1	1.8
家電	17.1	32.5
その他の家庭用品	6.6	6.3
家庭用品計	0.9	3.1
食料品	2.5	0.8
食堂・喫茶	8.7	8.4
雑貨	1.1	0.1
サービス	7.9	0.3
その他	23.8	3.8
合計	2.9	1.8

3. 概況

1) 百貨店業

- ・ 8月の百貨店業の売上高は、本年は土曜日が対前年1日減であったこと、猛暑のため8月売上の中核となる初秋物の動きが悪かったこと、さらに当社の店舗が集まる近畿・西日本への台風襲来をはじめオリンピック開催による入店客数が減少したことなどによって、直営店では対前年2.9%減、全体では同5.1%減となった。
- ・ 直営店の店別売上高は、札幌店は6.1%増と4ヶ月連続で前年を上回ったほか、京都店も食品フロア改装効果の持続により好調に推移、また神戸店も堅調であったが、その他は前年を下回り、直営店合計では対前年2.9%減となった。
札幌店は衣料品全体が対前年2桁増、京都店は食料品が同2桁増となるなどそれぞれ店売上を牽引した。
- ・ 商品別では、水着、ゆかた、サンダル、ミュールなど活発に動いたものもあったが婦人全体ではミセスを中心に不振、紳士服はTシャツ、ポロシャツなどが伸ばしたが、ビジネススーツなど重衣料を中心に苦戦した。家電は外商顧客を中心に売り込みを図った薄型デジタルテレビが依然好調であった。
- ・ 特に博多大丸、下関大丸、高知大丸は月末に台風の直撃を受けた影響が大きく、対前年2桁の大幅減となった。

2) その他

- ・ スーパーマーケット業の大丸ピーコックの売上高は、ビール、アイスクリームなど猛暑関連商品は好調であったが、他の商材が振るわず、関東地区が対前年1.1%減、関西地区が同5.0%となり全体では同2.8%減となった。
- ・ 卸売業の大丸興業の売上高は、畜産品や繊維製品、生活資材などが好調で対前年8.0%増となった。

お問い合わせ先	株式会社 大丸	グループ本社	広報・IR部
	TEL	06-6281-9002	
	FAX	06-6245-1343	